

「葛畑の舞台」で4団体が郷土民俗芸能を熱演

ふれあいの祭典民俗芸能祭Inかずらはた

昨年37年ぶりに復活した葛畑農村歌舞伎公演。今年も9月26日(日)、国指定重要有形民俗文化財「葛畑の舞台」を会場に公演されました。今年には昼公演と夜公演の2回に分け、地域個性あふれる民俗芸能が披露されました。

昼公演は「第16回兵庫ふれあいの祭典民俗芸能祭Inかずらはた」として農村歌舞伎葛畑座をはじめ県内各地から4団体が参加。夜公演は「農村歌舞伎葛畑座秋まつり公演」として開催され、昨年の復活公演に続き、公演は大盛況となりました。



息の合った三番叟さんぼそうの舞いで観客を魅了

「葛畑の舞台」と農村歌舞伎公演

葛畑農村歌舞伎舞台(芝居堂)は元禄年間(西暦1690年)に葛畑区内の神社境内に建築され、昭和40年に兵庫県指定文化財に、昭和43年には国指定有形民俗文化財にそれぞれ指定されました。

その後、昭和51年には舞台の土台や柱、板張りの取替えなど大修理を実施、平成14年には茅葺屋根の葺き替えを行い文化財の保存を進めました。同舞台で行われてきた歌舞伎公演は、昭和9年までは毎年秋に氏神祭奉納公演を行っていましたが、第2次世界大戦など社会情勢の急変により中断。昭和39年と41年には復活公演が実施され、平成11年に同舞台で兵庫県立播磨高等学校による播州歌舞伎が公演され、農村歌舞伎公演復活の気運が高まりました。それを受け、平成14年度か



葛畑農村歌舞伎芝居堂

ら5カ年計画で葛畑農村歌舞伎の復活活動が地元・葛畑区を中心に取組まれ、松竹(株)西演劇部上方歌舞伎塾の水口一夫氏を指導者に招き、復活公演に向けて練習を開始。平成15年10月に37年ぶりとなる復活公演が3日間にあたり盛だに開催され、農村歌舞伎復活と伝承活動が進められました。